

三重県立図書館貴重資料解説

書名	内容	書誌的事項
伊勢参宮按内記 上・下	齋宮から外宮・内宮を経て二見まで、道順に沿って名所・旧跡を紹介するもので、伊勢参宮案内の嚆矢とされています。序文から著者は伊勢山田の書肆講古堂藤原長兵衛と考えられます。	宝永4年(1707年) 版本 上巻42丁、下巻38丁 23cm
新撰 伊勢道中細見記	参宮の心得・道中の道具・大坂よりの本街道・大和越え・阿保越え・宮巡り・朝熊道・おおむ石道などを内容とした道中記です。	宝暦13年(1763年) 版本 1冊 8×16cm
伊勢参宮細見大全	芙蓉山人の作。京都からの伊勢参宮道中記ですが、「参宮大意」「参宮用意」などを細かく述べているのが他の参宮道中記と異なります。	明和3年(1766年) 版本 87丁 11×16cm
伊勢国細見図	津藩士・村田佐十郎恒光により作成された地図です。従来の伊勢国図数種を校訂し、携帯に便利のように小型にしたと序文にあります。	万延2年(1861年) 1枚 51×33cm
月瀬記勝 上・下	津藩の藩校・有造館督学であった斎藤拙堂の紀行文。大和の月ヶ瀬はこの書によって梅の名所として広く知られるようになりました。	明治17年(1884) 版本 上巻30丁 下巻26丁 12cm
本居春庭書簡	本居春庭(宣長の嫡子で国学者)から竹村平右衛門(茂雄)宛の書簡。竹村は宣長の門弟で、伊豆国の国学者(1769年～1844年)。書簡の日付は不明ですが、文政7年頃と推測されます。	文政7年(1824年) 頃 1通 21cm
狂詠五十鈴川	外題は「狂歌五十鈴川」。この年大流行した集団伊勢参宮「おかげまいり」を題材にした狂歌集で、上方を中心に、北陸・東海の狂歌を収めています。	文政13年(1830年) 版本 20丁 23cm
訂正再版 新撰三重縣地誌 全	著者は村上政太郎。小学校用教科書。風景や動植物、工芸品などの挿絵が多く載っており、当時の三重県の様子がよくわかる資料です。	明治26年(1853年) 訂正再版 版本 27丁 23cm
絵入り旅日記 坤	作者は伊勢神宮内宮御師浦田太夫長一。本巻は瀬戸内海沿岸から福岡・大分・熊本に至る旅の様子が、洒落な文章と風景画で描かれています。	嘉永6年(1853年) 頃 写本 47丁 16cm
御定目(伝「三井家御定目」)	呉服店大丸屋(現・大丸)江戸店のものと推定される「定目(経営方針・服務規定集)」です。松阪出身の豪商「三井家」の祖・三井高利の商法や経営哲学が色濃く影響しています。	寛延2年(1749年) 写本 63丁 31cm
蚕桑弁 上・下	著者は伊勢山田の野村義雄。上巻には主に桑の木の生育方法が、下巻には様々な桑の葉や蚕の飼育方法・道具等が、絵入りで解説されています。	明治8年(1875年) 版本 上巻37丁 下巻36丁 26cm
かくれんぼ	三重県出身の斎藤緑雨の近世戯作風の文語体小説です。「正直正太夫」の序文は緑雨自筆によるもので、著者一流の毒舌諷刺に満ちています。	明治24年(1891年) 版本 13丁 24cm
救荒草品図	食糧不足時に備え、食用となる野草を、調理法とともに図解した本です。	嘉永4年(1851年) 版本 8丁 23cm
伊勢名物通神風	式亭三馬作・歌川国直画。伊勢古市遊郭の「牛車楼備前屋」をルポ風に紹介・宣伝する「江戸広告文学」です。	文化15年(1818年) 版本 5丁 25cm
太神宮両御機殿通俗畧記	「伊勢国御糸庄民河野某」著、自序(2頁右)に「衣服の祖神の御徳を賤女山夫(しづのめやまがつ)までに諭さんことを」とあります。	天保6年(1835年) 版本 16丁 27cm
勢州鈴鹿孝子万吉傳 完	植村康濟著、鈴鹿郡(今の関町)坂下で、たいへん親に孝行し、褒め称えられた「万吉」という子どもの物語。	寛政元年(1789年) 版本 16丁 23cm
世中百首絵鈔	荒木田守武の「世中百首」(1525)に解釈と絵(川島重信)を付けた本。	天保6年(1835年) 版本 4丁、51丁 26cm
勢州白子神昌丸船 船頭漂流記	大黒屋光太夫がロシアから日本に帰還した時の文書「幸太夫磯吉取組の事」「漂民御覧之記」「雑録」の写本の一つです。	寛政5年(1793年) 写本 32丁 26cm